

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎚木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	我が家にも	藤村俊一	ブランコ	林 久子
3 ページ	摘草	佐藤道惇	人間距離	塚原謙二

ゴッホ展を観て

田中 勲

先日乃木坂に所用が有り、
たまたま空き時間があつたの
で国立新美術館で開催中の、
没後百二十年・ゴッホ展に足
を運びました。

フィンセント・ファン・ゴッホの油彩画と素描並びに、
ゴーギャン他ゴッホに影響を
与えた画家の作品等、計百二
十三点の作品によってゴッホ
の芸術の完成の過程がわかり
易く構成されていきました。館
内では多くの老若男女や外国
の方々も熱心に鑑賞されてい
ました。

「アルルの寝室」の水色の壁
やバラ色の床によって引き立
つ、明るい黄色と構図の斬新
さ。アルル時代より色彩が控
えめになったと言われている
「サンレミの療養院の庭」で
あつても、さまざまな色の花
が咲いている様子が鮮やかで
とても心に残りました。同じ
くサンレミでの「アイリス」
は青色のアイリスのみごとさ
と、茶色のしおれた花まで描
かれており、その対比も素晴
らしかつた。中でも「マルメ
ロ、レモン、ナシ、ブドウ」
は、ほぼ黄色と黄土色のみを
使用した実験的な油彩画で、
特に額装はゴッホ自身により
制作され、唯一残されたオリ
ジナルの物であり、黄色の彩
色もほどこされています。他
の作品もゴッホの燃える思い
と、激しい筆づかいがあでや
かに表現されていました。

展示にはゴッホ自身が収集
した、歌川広重の浮世絵版画
も、ゴッホが影響を受けたゴ
ーギャン他の画家の作品と共
にありました。

筑波大学の斉藤教授による
講義にて、波の伊八の欄間彫
刻「波に宝珠」が北斎による
浮世絵版画「神奈川沖波裏」
へと結実し、それが又フラン
スの芸術家達の創造活動に影
響を与えているように思われ
ると伺いました。またゴッホ
の作品の「星月夜」にも北斎
の「神奈川沖波裏」と共通す
る流動感があるとの事とし
た。この様に多様な楽しみ方
の出来る充実した展覧会でし
た。

ゴッホは亡くなる一ヶ月前
に妹のウイレミーナに宛てて
「僕は百年後の人々にも、生
きているかの如く見える肖像
画を描いてみたい」と書いて
いるとの事ですが、正にその
思いの如く、百二十年後の私
達に驚きと深い感動を与えて
余りあると思います。

(編集委員)

我が家にも

先日、見知らぬ携帯番号からの電話があった。

「N（息子の名前）だけども母さんいる？」

一瞬変だと思ったが妻に代わった。

「ゴホゴホ、風邪を引いてしまつてね」

「えー？Nの声じゃないね」

先方はあわてて電話を切った。さすがに母親である。風邪声でも息子の声はすぐにわかったようだ。

実は、4年前にもこんなことがあった。妻が旅行中のため、ひとりで留守番をしていた。午前十時ごろ見知らぬ携帯番号からの電話があった。

「（風邪声で）Nだけど」

電話番号が違うことを尋ねると、会社から貸与されている携帯だ、電話では話せないことなので会社を早引けして今からそっちへ行くけど家にいるかという。しばらくして、

また電話。そっちへ行こうと

思ったが午後から監査が入ることになった、会社の經理の

先輩から誘われて会社の金で株取引をした。すぐに穴埋め

すれば上司もかばってくれるとのこと。そういうこともあるかと信じかけた。しかし、

会社時代の経験から、監査人は見逃すはずがない。素直に

謝って返金し会社を辞めるしかない。送金するつもりは無

いから自分で取りに来いとい

うと、ちよつと待って、と電話を切った（結局、電話はかかってこなかった）。

次の電話を待っていると近くに住む娘から昼ご飯の誘いの電話がはいる。娘に話すと変だと思った娘がNに連絡を取ってくれて、一件落着。旅行から帰った妻に話すと、意外にダメね、と笑われた。

（中志津 藤村俊一）

ブランコ

「ギーコギーコ」とブランコを漕ぐ音がきこえる。家の近くに小さな公園があつて、いくつかの遊具もあるもので、よく子供達が遊んでいる。

ブランコの漕ぐ音は、子供の頃を思い出す。小学校で休み時間となると、駆けて行ってブランコに乗る。先に友達がいたりすると、早く降りないかと、もどかしく順番を待ったものだ。高く高く漕ぐと、青い空が間近に感じたり、背中が地面すれすれになったり、急に止まって降りた時、少し目まいを感じた事、今も覚えている。

ピリーバンバンの「白いブランコ」という歌があるが、私の好きな歌だ。あれは恋人との思い出の歌だと思う。先日テレビをみていたら、大統領候補で人気の高い男性にホテルで働く若い女性が一目惚れされ、自分でも少しづつ愛

を感じ始める。そしてあまりの身の違いに勤めの帰り道、夕ぐれの公園でブランコに独り座つて、しくしくと顔を覆つて泣くシーンがあつた。

このようにブランコの思い出は、嬉しいこともあり、又悲しくもあるものだ。八十歳を過ぎて、今更ブランコに乗つて、昔を偲ぶこともないけれど、何となくロマンスを感じる遊具ではないだろうか。

「ギーコギーコ」今日ほどんな子供が漕いでいるのだから、それとも幼い児を乗せて、ママが後からそつと押しているだろうか。ミシンを踏みながら快く感じる暑い日です。

（稲荷台 林 久子）



摘 草

「君がため 春の野に出でて若菜摘む 我が衣手に雪は降りつつ」(光孝天皇)

「野辺は春風そよよ吹いて土筆つくしついついよめなもまじる一つ見つけたすみれを摘めば籠にむらさき春の色」(新訂尋常小学唱歌第三学年「摘草」)

この優雅な風習は戦争の激化と共に廃れ、私の青春時代の戦中・戦後には、食べられる野草を求めて山野を駆け廻った。

敗戦から高度成長期を経て、私も庭付き一軒家に住むようになって、また雑草との付き合いが始まった。

幸い私は草取りがあまり苦にならない、というよりも今や趣味の域に達していて、毎日雑草との闘たたかいっこを楽しんでいる。

私の草取りは、鉄の棒を補助に根っこごと抜くので、た

だ引っこ抜くだけの草むしりの数倍の時間がかかる。

夢中になって抜いている内に(抜きやすい)ナズナが無くなっているのに気付いた。

そういえば母子草も見当たらない。やっと見つけた一本を畝うねに植えて育てることにした。

少し足りないけれど、これで春の七草粥は楽しめよう。

わが家のささやかな「摘草」の復活である。ああ、そ

うだ！今晚はスベリヒユの酢味噌和えで一杯飲もう。(七月)

(摘木町 佐藤道惇)



人間距離

姑と嫁との間では好ましくない感情が生まれやすいが、

おばあちゃんと孫との関係は良好であることが多い。会社の部長と課長の間では陰湿な感情問題も起きやすいが、社長と平社員の間では波風は立たない。親は同居している子供よりも、遠くに離れて住んでいる子供の方を温かい眼で見ると傾向がある。

交通安全のための車間距離があるように、人と人との間でも人間距離がある。物理的な距離や生活上の立場での距離に近いほど、マイナスの感情が生じるのが普通。その距離が離れるほど、マイナスの要因はフィルターで薄められ、好感にさえ変わることも多い。

人間関係が悪化するとどうしようもなくなる。外科手術のように切り離せば一件落着にはなる。しかし、離れられ

ない状況で生きていかなばならない現実がある。

明るさ、親切心、誠実などにプラスして適切な人間距離をキープすることが肝要。

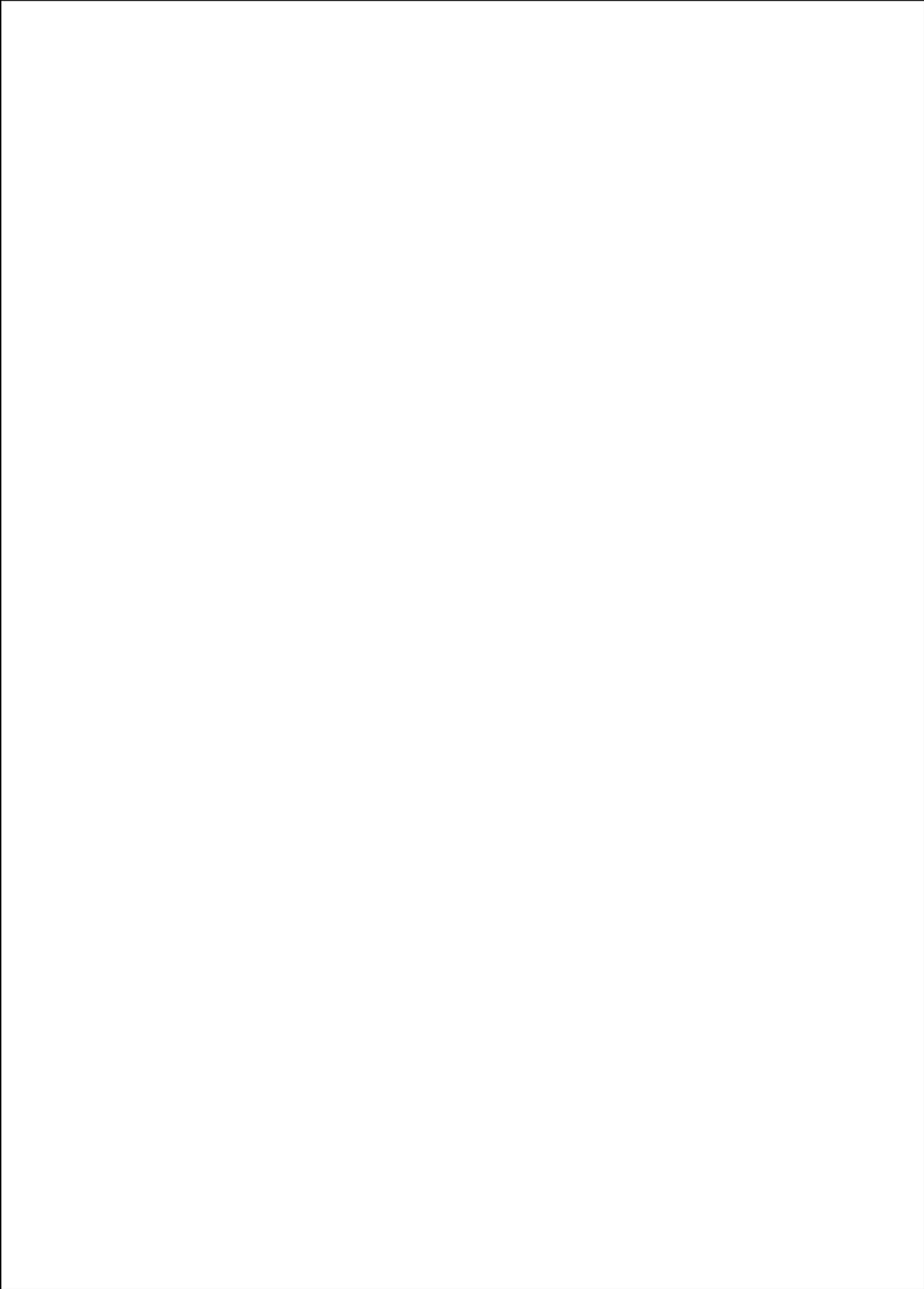
昔の人たちは「親しき仲にも礼儀あり」の距離を保つことが大切と考えていた。結婚した息子が実家よりも嫁さんの実家と親しくお付き合いする例が多い。嫁さんの両親と婿の間ではこの適切な人間距離が守られていることが一因。

定年後の夫婦間より近い人間関係はないが、それで困っている老婦人も多い。さてどうするか。とりあえず、亭主関白も定年として、自ら家事に進んで携わることが老夫婦円満のための現実策だ。

他人に厳しく自分に甘い私が提案するのも恥ずかしいことだが。

(大蛇町 塚京謙二)





12月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

さくら道

私の体重は六十キロです。会社を辞める時は、七十五キロありました。六年の間に十五キロ痩せたことになりました。周囲の人達は、会うたびにびっくりしたり、心配したりしてくれています。体重を減らす為に特別な運動はしていませんでしたが、規則正しい生活が良かったように思います。

九時就寝、四時起床。ウォー

キングは一万歩を目標にしています。今年のように夏の暑い日は遠慮なく休みます。命あつての物種です。

夕食は寝る三時間前に済ませ、少し空腹にして寝るのが、健康には大変良いようです。

家事手伝いは、前向きに行なっています。特に拭き掃除は、思いの他に体力を使い汗の出る労働です。けれども、夫婦円満という副産物があるようです。

（大蔵康次）

あどがき

今年から『なかま』の編集委員に仲間入りしました。よろしくお願致します。

昨年病死した、クラスの朋友の代役が勤まれば、と手をあげました。自分は人様のかかれたものに手を入れる能力などないのですが、読ませていただくのは大好きです。

ここ数年は自分の読む本は図書館を頼りにしています。新聞の書評、広告の情報をもとにリ

クエストし、いつも十数冊のストックが有ります。たまたま数冊が同時に手元に来る時には貸出期限内に読みきれない時もあります。が、毎日二時間前後、読書を楽しみます。

新入社員時代から、残業代で買いためた本が、ある時、本箱と共に消えていました。捨てる事、大好き人間の家内の暴挙に啞然としましたが、今では、これも良し、と思う歳になりました。

（稲田圭佑）